



# NEWS LETTER

No.30  
2022

男女共同参画推進室では、山形大学男女共同参画基本計画（第2次）に基づき、男女共同参画及びダイバーシティに関する意見・要望等をくみ上げたり、共有したりすることや、意識改革の促進を目指し様々な事業に取り組んでいます。今回は、その内容についてご紹介します。

## 学長・学部長との懇談会

小白川キャンパスでは、今年度は地域教育文化学部が担当となり、11月に78名の教職員が参加し「学長・学部長とのワークライフバランス研修会」を開催しました。また、鶴岡キャンパスでは、12月に13名が参加し「学長・学部長と女性研究者との懇談会」を開催しました。

男女共同参画推進室より、本学男女共同参画基本計画第2次に関する様々な事業を説明した後、参加者から、日頃感じていることなどが出され、女性研究者のワークライフバランスの現状や男女共同参画推進室の取組についての要望等がありました。小白川キャンパスでは、事前アンケートの結果が報告されました。

研修会のアンケート等を踏まえた今後の対応の検討や、女性研究者の学部を超えたコミュニティの形成の必要性、リーダーの養成等の要望もあり、率直な声を聞く懇談会となりました。



鶴岡キャンパス



小白川キャンパス

## 新任者と語るオンラインミーティング

男女共同参画推進室ではコロナ禍の中で、交流する機会が少ない新任の教職員を対象に、オンラインミーティングを7月に開催しました。今回は、新たな環境の中で不安に感じていることや福利厚生などの制度、仕事などについて話しあいました。仕事内容に違いがあるため職員・教員と分かれて二部構成としました。

オンラインミーティングでは、参加者の事前アンケートに寄せられた意見や要望をもとに、室長や副室長、総務部長、労務課担当者、推進室スタッフから説明がありました。その後、参加者から、業務に関することや学生への指導や授業の運営についての不安などが出されました。また、事務職員と教員のそれぞれの不安に、経験豊富な出席者から貴重な話しや助言がありました。

参加者からの事後アンケートでは、「大学組織、研修・福利厚生の制度を知ることができた」、「なかなか会えない同期の職員と顔をあわせることができた」、「知りたい情報が得られた」、「ネットワークを形成することができた」等、有意義な会であったとの意見がありました。一方で、「対面とオンラインの併用であり参加者同士の双方向的な会話が難しく交流を深めるまでには至らなかった」との声もありました。

この取組は、全キャンパスを対象としており、年度後半に採用された米沢キャンパスの教員には、チーフ・コーディネーターが話しをするなど、男女共同参画推進室では、情報共有に努めています。



教員



事務職員

## 第1回 女性研究者の集いを開催

令和3年度に実施した「男女共同参画に係る第7回アンケート」では、「職場で話せる人がいない」と感じる女性教員は、6割近くで前回調査よりも16ポイント上昇し、他の職種別・性別より高い結果でした。こうした状況を踏まえ、男女共同参画推進室では、さまざまな分野のさまざまな年代の方々が交流し、ゆるいつながりを築く「女性研究者の集い」を企画しました。2月17日に第1回を実施したところ、全学部から13名の方にご参加頂きました。仕事内容や研究テーマなどを中心に自己紹介し、お互いを知る機会になりました。コロナ禍が続くなかで着任された方のなかには、学部を超えた交流は、今回が初めてという方もおられました。また、推進室のイベントに参加したことがきっかけで、現在の共同研究につながっているというお話しや、研究と授業を両立しながら子育てしている工夫などのお話しを頂き、具体的な情報交換の場となり、終始和やかな雰囲気でお話しが深まりました。

男女共同参画室では、今後も定期的に女性研究者の集いを行っていきます。ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしています。



## 裾野拡大セミナー(理学部・農学部)

推進室では、本学の男女共同参画基本計画(第2次)の、女性研究者(理系)の裾野拡大の事業の一つとして、女子中高生に向けてのセミナー等の企画を募集しました。今年度は、理学部と農学部より企画提案があり、両学部ともオープンキャンパスの開催に合わせて講演や座談会を実施しました。

農学部は、バーチャルオープンキャンパスを企画し、女子高校生とその保護者を対象に、「農学部ってどんなところ?~現役理系学生の話聞いてみよう!~」のテーマのもと県内外から70名を超える方が参加しました。理学部では、高校1年生と2年生に分けて、研究室の見学や理学部の各分野・領域の学生から、専門分野や研究に関する声を届けました。参加者からは、研究分野の他にも、学生生活についての質問なども寄せられました。

来年度も、企画を募集します。山形大学の魅力を中高生へ伝え、裾野拡大につながるよう推進していきます。

## 山大JOINの活動

次世代のリーダーを担う女性人材の育成を目的としている「山大JOIN」。今年度は16名の大学院生の登録と学部生にも協力してもらいながら、活動を継続してきました。

年度後半の活動としては、県内のスーパーサイエンスハイスクール校の全国大会での研究発表の支援、県内高校の課題研究への支援などを行いました。また、高校で先輩たちへ講演するなど、裾野拡大に寄与しています。

10月には、女子中高生の理系進路選択支援プログラムにある、山形県男女共同参画センターのチェリアフェスティバルでのサイエンス・カフェを行いました。中高生への実験の支援や、参加者の保護者も含めて座談会を実施しました。参加者からは、より具体的に女性研究者のことが理解できたとの感想が寄せられました。



山形大学「女子中高生理系進路選択支援事業」  
協力：山形県男女共同参画センター「チェリア」

対象  
女子中高生の  
親子12組

女子中高生のためのサイエンス・カフェ  
~親子で女性の研究者と話してみよう!~

2021年10月2日(土) 10:00~12:00  
現地会場：遊学館3階 第1研修室(山形市緑町 駐車場は裏面)  
YouTube参加も有(一般の方も視聴可能)

講師  
河合 寿子氏 山形大学理学部 助教  
女子大学院生の皆さん 山形大学理工学研究所

## 米沢キャンパス キャリア・就職活動セミナー

米沢キャンパスでは、博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」及び「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」コース主催の、「キャリア・就職活動セミナー」が毎年開催されています。

開催は、「就職活動を来期に控えた博士後期・前期課程在籍者、及び大学院進学を考えている学部生を対象に、就職・進学への選択、卒業後のキャリアパスを思い描く機会」として実施しました。具体的には本学のキャリアサポートセンターの教員、ならびに博士学位を有し、産学官の各面で活躍する卒業生によるオンラインでの講演を通じ、各学生の将来像を描く助けとするとして取り組まれました。この取組は、大学院生が中心となって運営し今年度は2回実施されました。今年度の第1回ではチーフ・コーディネーターからキャリア形成について話をしました。工学部出身の皆さんの講演があり、脈々と後輩に様々なノウハウが受け継がれていることに、とてもよい取組であると感じました。

男女共同参画推進室では、米沢キャンパスキャリアサポートセンターと共に共催しています。

キャリアパス構築を応援した  
キャリア・就職活動セミナー

日時 2021年 7月28日(水)

タイムスケジュール  
13:00~13:30 セミナー開催概要説明・諸注意  
13:30~13:35 キャリアセミナー  
講師 学生課程基礎教育機構 准教授 松坂 隆浩 先生  
(コメンテーター)  
13:35~14:00 キャリア形成セミナー  
学生課程基礎教育機構 准教授 山本 美奈子 先生  
講師 山形大学女子共同参画推進室  
准教授(チーフコーディネーター) 相崎 悦子 先生  
15:00~15:10 質疑応答

参加対象  
博士5年一貫コース生、博士後期・前期課程学生、  
研究員(ポストドクター)、大学院進学を考える学部生

場所  
zoomによるオンライン形式(参加URLは参加申込者にお送りします。)  
※申し込み後、個別メールにて参加URLをお送りいたします。

【お問合せ先】  
フレックス大学院 事務局(5号館400)  
内線:3834  
Email: ifront.careerseminar@gmail.com

【お申し込み方法】QRコードからGoogleフォームにアクセスし、必要事項をご記入下さい。  
フレックス大学院 事務局(5号館400)  
内線:3834  
Email: ifront.careerseminar@gmail.com

本セミナーでは、アカデミアに就職した卒業生をお招きし、「どのような就職活動だったか」、「在学中に何を学ぶ必要があったか」、「どのようなキャリアパスを画いているか」についてご講演頂きます。

【お申し込み方法】QRコードからGoogleフォームにアクセスし、必要事項をご記入下さい。  
フレックス大学院 事務局(5号館400)  
内線:3834  
Email: ifront.careerseminar@gmail.com

## ソロプチミスト受賞

中村 文子先生 学術研究院(人文社会科学部担当) 准教授

この度は、このような素晴らしい賞を頂きまして誠にありがとうございます。貴財団は、女性の地位向上や人権など素晴らしい活動をしていらっしゃる。そのような財団から、このような賞を頂けますことは大変名誉なことです。

私の研究は、人身売買を事例として、どのように人権規範を普及させていくのかということを考える研究です。昨今、人身売買という言葉をよく耳にするかと思いますが、人身売買の中でも半分以上が性的搾取を目的とした人身売買です。その他に強制労働や臓器売買を目的とした人身売買がありますが、やはり性的搾取を目的としたものが大変多い。それはつまり、女性や女児の被害者を多く生んでいるということになります。人を物として売買する—そのような犯罪が今もなおアンダーグラウンドに行われているのです。それを禁止する条約があるにもかかわらず、人身売買が無くならないのはなぜか、どのような人々が被害にあっているのか、どうしたらそのような問題がなくなるのか、それらを日々考えています。これは女性の地位向上の話にも繋がる問題です。女性の地位がより向上していけば、人身売買といった女性に対する犯罪もなくなっていけると考えています。そのような意味でも、貴財団の活動は大変大きく寄与すると期待しています。

また、私が所属している山形大学でも、このような女性の人権についてより深く考える人材を育てていけたらと思っています。



## 各種支援制度活用状況（令和3年⇒12月末時点）

各種支援制度についての活用状況についてお知らせします。

山形大学男女共同参画基本計画（第2次）には、「教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り」の事業があり、具体的な支援制度は、前年度と年度当初の募集によって運用されています。研究環境と就労環境の2つに大別されており、研究環境支援では、下記の①から④があり、就労環境支援では5つのうち特に⑤を実施しています。

〈研究環境支援〉

①自宅等のパソコンから学内LANを利用し、大学外にいても研究や業務を可能とするユビキタス・ワーキング・システムの環境を整備する。

⇒女性研究者へのノートパソコン貸出【6台貸出】

②教職員からの相談を男女共同参画推進室で随時受け付け、当該部局と連携し協力して問題の解決に当たる。

③育児・介護中の研究者が研究を継続できるよう、適切な「研究継続支援員」を配置するなどの支援を行う。

⇒研究支援員制度【20人】

④国内外の学会参加を、育児・介護を理由に断念することがないように、地域の保育・介護支援施設とも連携して支援する。

⇒学会参加時の育児・介護支援制度【0件】

〈就労環境支援〉

⑤キャンパスに合った保育サービスを提供し、充実に努める。⇒各種保育利用料補助制度【延べ29件】

⑥すべての教職員に対し、育児・介護休業の取得に支障がないように環境を整備し、育児・介護休業のための諸制度の利用を促進する。

⑦男性教職員の育児等を目的とした休暇・休業制度等の利用を促進する。

⑧ワークライフバランスの観点から、業務の改善に取り組み超過勤務を縮減すると共に各職場の就労慣行を見直し、就労環境の改善に積極的に取り組む。

⑨会議については、就業時間内に終了するよう工夫する。※就労環境支援についての⑤から⑨は全学的取組。

## 生理用品の無償配布を実施しました

男女共同参画推進室ではEM部学生支援課と連携し、新型コロナウイルス感染症の影響などをせずに、学生の皆さんの生活や学業の充実を図る一助として、1月11日（火）から2月10日（木）まで、保健管理センター・各キャンパスの保健管理室において生理用品の無償配布を実施しました。受け取った学生さんからたくさんの喜びの声をいただいております。学生支援課と連携して学生さんの期待に応えられるよう本事業を来年度も継続して実施していきたいと考えております。



**畔柳 まゆみ 先生**

学術研究院(地域教育文化学部担当) 准教授

**「若者が自分自身で人生のゴールを見つけ、  
それを実現しようとしていく能力を育てたい！」**



子供から大人への移行期である思春期は、二次性徴が顕著になり心身に性的成熟が急激におこる時期である。それとともに将来自分はどのようにになりたいのかが自分の姿を見極める期間でもある。この時期に、男らしさ、女らしさととらわれず社会の中でどう生きていくかについて学ぶ機会を持つことは将来の人生設計を構築していくうえで大きな意味をもつ。将来成熟した一人の人間として生きる力、人生のゴールである豊かな人生を創造できる力を育て、ヘルスプロモーションの柱の一つである「その人自身の力や技術の向上を育てる」ことにつながる。

昨年ある中学校で命の学習(性教育)を指導する機会をいただいた。性に対する価値や態度の形成については、従来のような知識伝達を主とした指導型では主体的な行動変容はなかなか起こりにくいと言われる。そのため学習内容にグループ活動のなかで生徒自身が多様な考えや交流を通して自らの態度を選び取ることにつながるように、テーマを設定しディスカッションの場面を設けた。実際の授業ではどの生徒

も終始真剣に取り組んでいたのだが、グループ活動の場面になると一言も言葉を発せずお互いうつむいて困惑している生徒の姿を目の当たりにした。思春期真っただ中の生徒に性に関する事柄について、それも初対面の外部講師のもとで自由に表現することを求められても無言にならざるを得ないのは無理もない。指導者としては大いに反省すべき結果になってしまった。一方で、本来ならば思春期にある人々の最も重大な関心事である性=セクシャリティについて、当事者こそが関心事や疑問を抵抗なく表現できたら、周りの人々のあたたかな目のもとで自らの課題を解決したり生き方を選択したりと積極的な生き方が実現できるのではないかという思いを強くした。

今年度も同じ中学校から指導の機会をいただいている。今回は昨年反省をもとに、生徒にとって最も身近な存在であり、同じ世代として価値観を共感・共有する「仲間:ピア」というキーパーソンがピアカウンセリング手法を用いて行うピアエデュケーションの手法を取り入れて実施することにした。思春期ピアカウンセリングとピアエデュケーションはとともに、思春期のヘルスプロモーションの方策であり、若者が自分自身で人生のゴールを見

つけ、それを生き生きと実現しようとしていく能力を育てる健康教育の手法である。現在養護教諭特別科の学生がピアエデュケーターとなり、ピアカウンセリングの手法を用いて、生徒の意見に傾聴し共感的・受容的態度で生徒が自己開示しやすいような働きかけができることを目指している。授業のなかで学生たちはピアエデュケーターとして研修を積むとともに生徒の実態と学校側のニーズに照らし合わせた授業づくりにも積極的に取り組んでいる。今後は模擬授業を行いさらに検討を重ねて指導の日を迎える。



**山形大学附属図書館 特別貸出コーナー**

小白川図書館では男女共同参画推進やダイバーシティ関係の図書について、独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)の特別貸出コーナーがあります。1月から3月の書籍は、「シングル・家族、健康・からだ、メディア、美術」となっています。ぜひこの機会にご活用ください。

- 貸出図書の一部
- ジェンダーと生政治(戦後日本を読みかえる; 4) 坪井秀人編(臨川書店2019)
  - 都市郊外のジェンダー地理学: 空間の変容と住民の地域「参加」 関村オリエ著(古今書院2018)
  - 暴力・国家・ジェンダー 中島康予編著(中央大学出版部2019)
  - 女性官僚という生き方 村木厚子、秋山訓子編(岩波書店2015)
  - ジェンダー法学入門 三成美保[ほか]著(法律文化社2019)
  - 労働力の女性化の光と影(ジェンダー労働論; 続) 川東英子著(ドメス出版2019) など 100冊



編集後記/年度後半になり、新型コロナウイルス対策を継続しながら対面授業が再開され、キャンパス内にも少しずつ活気がでてきました。教職員の皆様にご協力いただいた男女共同参画アンケートについては、現在、男女共同参画推進委員会で分析し、推進室でとりまとめております。このニュースレターが発行される頃には、令和3年度報告書に記載できることでしょうか。そのアンケートの結果を次年度以降の取組に反映させながら、ワークライフバランス実現に向けて取り組んでいきます。(2022年1月)

**山形大学男女共同参画推進室**

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12  
TEL 023-628-4937/4939  
E-mail yu-y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/

